

地球温暖化問題への対応に向けたICT政策に関する研究会
評価対応WG（第9回会合）議事要旨

1. 日 時：平成20年2月26日（火） 14：00～16：00

2. 場 所：総務省第2会議室（地下1階）

3. 出席者

(1)構成員（敬称略、五十音順）

森俊介（主査、東京理科大学）、安藤亨（KDDI（株））、田中寛（KDDI（株））、技術開発WG構成員）、石井晃（日本放送協会、代理：大西一範）、井上浩之（（社）電子情報技術産業協会、ソニー（株））、岩崎哲（松下電器産業（株）発表者：砂川章雄）、神崎洋（トヨタ自動車（株））、小林英樹（（株）東芝）、高橋正登（（社）日本民間放送連盟、（株）東京放送）、田村潤三（（社）情報通信技術委員会）、津田邦和（NPO法人ASP・SaaSインダストリー・コンソーシアム）、中山憲幸（日本電気（株））、西隆之（（株）日立製作所）、西史郎（日本電信電話（株）発表者：澤田孝）、野田健太郎（日本政策投資銀行）、端谷隆文（富士通（株））、山田英二（（株）NTTデータ）

(2)総務省側

藤本情報流通高度化推進室長、中村情報流通高度化推進室振興係長

4.議事

(1)開会

(2)議題

- ① 構成員からの発表
- ② 報告書(案)について
- ③ その他

(3)閉会

5. 議事概要

(1)開会

(2)議題

①構成員からの発表

資料WG9-1、WG9-2に基づき、それぞれ松下電器産業（株）砂川主事、日本電信電話（株）澤田主幹研究員から説明を行った。

①に関する構成員からの主な発言は下記の通り。

- ・一般的に、家庭用の太陽光発電の発電量や消費電力量を表示する製品においては、電力の発

電量と消費量とを比較できるように両方表示したタイプの製品の方が、両者の差分のみを表示するタイプの製品よりもユーザーにとって面白みがあるのではないか。

- ・紙の CO₂ 排出原単位には製造に関わる負荷は含まれているが、紙の使用量削減により森林が伐採されなかった場合の CO₂ 吸収量は含まれていない。これは、森林の CO₂ 吸収量の算定が難しく、かつ、森林の管理・活用の仕方によって CO₂ の排出量、吸収量にばらつきがあるためである。
- ・電子申請の中には、確定申告など1枚ではなく複数枚綴りの用紙を用いているケースがある。それを職員が手作業でコピーを取り、手続きや保管を行っている。そのため、情報を集めてより詳細に評価モデルを設定できれば、紙の削減及び業務の効率化について、CO₂ の削減効果はかなり大きくなると思われる。
- ・ICT サービスの評価を行う際には、使用する原単位の影響が大きいため、業界全体の値を合計するなどの場合には検討が必要である。また、電力原単位は統一した方がよいのではないか。
- ・エネルギー消費量はジュールにて表記する方が電力原単位による影響を受けないという点で適切であるが、分かり易さという点では CO₂ 排出量で表記した方が好ましい。また、ペーパーレスの効果など、電力量での表記が難しいものについても CO₂ 排出量であれば可能である。
- ・将来予測の際に用いる2007年度以降の電力原単位は2006年度の値をそのまま使用するのが良いのではないか。

②報告書(案)について

資料WG9-3-1から WG9-3-11に基づき、それぞれ森主査、事務局、日本電信電話(株)澤田主幹研究員、津田構成員、岩崎構成員、松下電器産業(株)砂川主事、神崎構成員、安藤構成員、山田構成員、小林構成員から説明を行った。

③その他

- ・事務局より次回会合の予定が説明された。

(3)閉会

以上